

器用な日本人、起用する日本人

日本語缶 06

これまでに日本語館を読まれた方々から多くの反響やご意見をいただきました。ありがとうございます。ここまで何かが伝わるとは全く予想外のことでした。しばらく書こうという元気というのか、気持ちが出ずでその後の書かずでどうもすいません。昨夜寝る前に犬と鶏が鳴いていたので、それをヒントに感じたことを今日はすこし。

ヒントは得たが、寝るのに鳴かれるとちょっと。。。

自然の音をものまねせずに脳に取り込む、生活に活かす。。便利な擬音や擬態の言葉を器用にも単純な音で作りに、それを起用する。今回はそのことを書いてみたいと。。。

音と動きや状態が合体した副詞。どうでしょうか？ 沢山あるけど例えば、ざわざわ、さらさら、すやすや、こんこん。。など。「えっへん」でも実際は日常会話の中で「えっへん」とわざわざ言う人はいないのでは？ えっ、変？ 「えっへん」と書かれていたら皆さん状況は想像すればつかめますよね？ バサッ、ぱさり、パリッ、どさっ、どっかーん、べりべり、ぼろぼろ、しょぼしょぼ、なんか切りが無いなあ。

動物の鳴き声に関して言うと、犬はワンワン、猫はニャー（猫ひろしも）、他の猫はニャン、ライオンはガオー、象はパオーン、。。あれえなんか KREVA さんの曲に似てきた。。リズムがのってきた。それはさておき、音としてではなく、複雑な音を単純化させ、単純な音の言葉に変換してきた日本の方々。ほんまに器用やねえ～。パオーンでよう通じるもんや。あとコケッコーも結構すごいと。。。

コケッコーは「コ」と「ケ」とで出来ている。これが英語ででは、cock-a-doodle-doo になる。カタカナ表記でクック・ア・ドゥードゥル・ドゥー。アルファベットのスペル文字でいくと、「C, O, K, A, D, L, E」と7種。カタカナでいくと「ク」と「ア」と「ド」と「ウ」と。。コケッコーをローマ字に変換すると、KOKEKOKKO で「K, O, E」の3文字だけ。英語のほうは、ものまね、鳴きまねに近い？ 感じだ。より厳密に描写しているのかもしれない。日

本語の場合は言葉に変換されているようで、単純。経済的または便利といえるのかも知れない。

スペイン語では quiquiriquí (きーきりきー) と意外と単純なのだが、どうもニュアンスが。。。むしろ虫の音のような感じがしないでもない。。。あと犬は guauguau (ぐあうぐあう)。。。ちょっと怖そう。さて犬のキャインキャインとかキャーンキャーンなんかはどうなのか？英語とスペイン語では想像が付きにくい。調べてもあのウドさんのキャーンが出てくるだけで。。。(古！)

しかし、日本語というのは音が単純だというのは確かで、こういった擬音語や擬態語も単純音化は避けては通れない法則なのは理解できる。

単純なゆえに逆にその擬音語や擬態語に出たときにはそれなりの想像力を必要とする。実際の状況を単純な音から繰り広げられる力、想像力という世界を日本人というのは昔から持ち、またそれも想像では無い現実の日本という空間と時間を繰り広げてきている原動力の一部なのでは？と考えてしまふ次第であります。

今回も“直直訳”の世界への突入には至りませんでした。すいません。ぺこぺこ。

以上書き切りシリーズ日本語感6でした。

2009年8月28日

西田賢司

サンホセ、コスタリカにて

追感、虫の音：ツクツクボーウシツクツクボーウシ！ マツムシはちんちろちんちろちんちろりん、スズムシはりりんりんりんりりん、スイ（ギ）一っちょんはウマオイやキリギリス、コロコロっコロコロっはコオロギ。。。日本はこれから秋！風流やなあ。